

花のお江戸を歩く会

江姫ゆかり「柿生」の緑陰を歩く

「茶臼山緑地～王禅寺～浄慶寺」

平成25年10月6日(日)

《散歩道ガイド》

このコースは、多摩丘陵の北部中央に位置し、標高 70～80m 程度の丘陵が連続する見晴のよいコースです。この地域は、鶴見川の支流の真福寺川や早野川の源流域でもあり、これらの川に沿って大小多くの緑豊かな谷戸がありました。1965 年ごろから大規模な宅地開発が進みましたが、かつての農村的な風景は、現在も公園や畑、山林にその面影を残しています。

このコースに当たる旧王禅寺村は、徳川家二代将軍徳川秀忠の夫人の、お江与の方の嫁入りの際に与えられた領地（御化粧領）で、また、お江与の方と秀忠が亡くなった後の 1632 年に徳川家の菩提寺である芝・増上寺の領地（御霊屋領）となったことなどから、幕府からの諸役の負担を一部免除されていました。江戸時代、1762 年の王禅寺村絵図に「けわいめん谷」とあり、「けわい」とは化粧のことで「めん（免）」は年貢の免除などを意味しています。現在の王禅寺ふるさと公園の、西側の早野川沿いの辺りを指しています。

《散歩道順路》約8Km

小田急「柿生駅南口」→茶臼山緑地→むじなが池公園 T→白山神社→島田生長の森緑地→【ランチタイム】→王禅寺ふるさと公園 T→王禅寺→琴平神社 T→神明神社→稲荷森神社→籠口ノ池公園→道標→不動橋→月読神社→秋葉神社→浄慶寺→柿生駅（解散）

《個別ガイド》

① 茶臼山緑地

旧王禅寺村日光と道一つ隔てて、旧上麻生村山口の小高いここを茶臼山という。慶長 19 年大坂冬の陣、翌元和元年夏の陣に、徳川家康が大坂城攻略の本陣を天王寺村茶臼山（大阪市天王寺区）においた。後年、家康は江戸幕府に近いこの丘で鷹狩りに興じ、天下人の感慨に耽ったと云われる。「茶臼山緑地」の伝承である。

② むじなが池公園（T）

かつて「むじな」が多く棲んでいたことから「むじなが池」と呼ばれるようになった池があり、それが公園の名の由来となったということのようだ。余談だが、「むじな」は通常はアナグマのことを指すのだが、地方によってはタヌキのことを指したり、タヌキやアナグマ、ハクビシンなどを総称して「むじな」と呼んだりもするようだ。「むじなが池公園」は、その「むじなが池」とその周辺の樹林地から構成された公園だ。

③ 白山神社

白山神社は、修験道とつながりの深い加賀国（石川県）の白山神社の末社として勧請され、祭神は白山姫命である。王禅寺村の鎮守五社のひとつである。社殿は嘉永4年（1851）に再建され、そこに納められている本殿は、方一間の流造であるが、側面の組物は三手先斗きょうで、いくつもの力強い龍が取り巻き、特徴ある装飾的な建築様式を生み出している。また、白山神社は虫歯をなおす神として古くから信仰され、萩の枝で作った箸を供えて祈願する習慣がある。

現在の拝殿及び本殿は、王禅寺の志村家に伝わる文書によれば江戸時代末期、嘉永3年～4年（1850～51）にかけて再建されたときのもので、総檜・素木造りで、向拝柱・木鼻などには躍動的な獅子や龍の彫刻が、また脇障子や壁面は仙人や鶴などの彫物でふんだんに飾られています。このような豊かな装飾は、関東の幕末期社寺建築の特徴でもあります。本殿は平成8年（1996）1月25日に、市重要歴史記念物に指定されています。→島田生長の森緑地→【ランチタイム】

④ 王禅寺ふるさと公園（T）

川崎市制60周年を記念して計画されたこの公園は多摩丘陵の豊かな自然を生かし、水と緑をテーマとして作られた公園で、多目的広場、芝生広場、遠見の広場、多摩川をイメージした流れ、自然林を生かした散策道、富士山を眺望できる展望広場等があり、多くの人に利用されています

⑤ 王禅寺

寺伝によれば延喜17年（917年）高野山の三世無空上人が、醍醐天皇から「王禅寺」の寺号（王の命じた仏教を修行するに適した場所としての寺という意味）を賜り、同地に改めて創建され関東の高野山と呼せられ、東国鎮護の勅願寺となる。延喜21年（921年）高野山の熊空上人により真言宗の寺となるという。

建保2年（1214年）、等海上人で王禅寺の中興の祖（横浜市金沢区の称名寺の塔頭延命院の住僧）。山中で寺院再建の用材捜索中に、等海上人が自生している禅寺丸柿を発見したとされる。元弘3年（1333年）鎌倉攻めの新田義貞の戦乱の兵火を被り焼失。建徳元/応安3年（1370年）再興された。

最盛期には、真言密教を修行する七堂伽藍を持つ学問寺として檀家を持たず、近隣の末寺36ヵ寺の本寺として、末寺からの上納により運営されていた。鎌倉時代、將軍より多くの寺領を寄進され、戦国時代には北条氏直から、銀三十貫を安堵された。さらに江戸時代幕府より三十石の朱印与えられた。徳川幕府の歴代の將軍（徳川家康を始めとし、後の13人の將軍）の位牌を奉り、將軍家より葵の御紋の使用を与えられた。

◆王禅寺の里◆

川崎市域の北西部に位置する旧王禅寺村の村域は、ほぼ現在の麻生区の王禅寺・白山・虹ヶ丘地区にあたる。王禅寺村は、江戸時代の初期頃までには、麻生郷から独立して一村となった。初めは二代將軍徳川秀忠の夫人であるお江与の方に、嫁入りの際に与えられた

領地（御化粧領）であったが、寛永9年（1632）からは、徳川家の菩提寺である芝・増上寺の領地（御霊屋領）となった。村内は、ほぼ東側を表郷（入口谷戸・谷戸・日吉谷戸）、ほぼ西側を真福寺谷戸といった。農業の自然条件には恵まれず、余業として柿が栽培され、禅寺丸と呼ばれて江戸（東京）にも出荷された。旧王禅寺村も、昭和40年代から大規模な宅地開発が進み、かつての農村的な風景が近代的な都市景観へと大きく変貌しているが、残された谷戸田や畑、山林などが今なお昔の面影を残している。

◆禅寺丸柿◆

麻生区は日本最古の甘柿「禅寺丸柿」発祥の地です。禅寺丸柿は、平成19年（2007年）7月26日に国登録記念物に指定された。また、川崎市のみちの樹に指定されているものもある。禅寺丸柿は、鎌倉時代前期にあたる建保2年（1214年）に、星宿山王禅寺の山中で発見された、日本最初の甘柿とされている。このことから、柿生の地名の元となり、古くから地域の人々の生活を支えてきた禅寺丸柿の原木が現在も王禅寺境内で保存・育成されている。

江戸時代初期、実際にお江がこの地を訪れた話は伝わっていないが、秀忠が鷹狩りに訪れ、王禅寺の柿を「禅寺丸」と命名したと伝わっている。

江戸時代の慶安元年（1648年）頃から、王禅寺近隣地域に栽培が広がり、地域経済を支える現金収入の大切な産物となっていた。また、明治時代になってからも、東京へ出荷されていた。明治22年（1889年）には、町村制施行で、周の10ヶ村が統合され、村名は「柿生村」となった。明治時代の末には、関東から名古屋まで出荷され、最盛期を迎えた。その後は新種の登場や都市化の進展による柿の木の減少などにより、昭和40年代半ばには市場から一旦姿を消したが、地域の人々の熱意と努力で「柿生禅寺丸柿保存会」が結成され、近年その稀少価値が生じ、人気が復活した。→ふるさと公園（T）→化粧面谷

⑥ 琴平神社（T）

当神社に代々伝わる古文書によると、正徳元年（1711）以前に伊勢山の地に神明社があった事が記されています。その文によると「崇源院様（江姫）ご繁栄の祈禱所として当村鎮守大神宮を勧請致し、これまで年々伊勢踊り、神事祭礼、湯立神楽等仕え来たり当村の鎮守に御座候」と記されており、その後（文政9年1826）伊勢山の地に当村名主志村文之丞によって四国金刀比羅宮祭神をこの地に勧請し、神明社・琴平社の合社が再建された。これが琴平神社の起りです。天神殿の天井には渡辺華山筆と伝えられる63枚の花鳥山水を描いた板絵が嵌めこまれています。

⑦ 神明神社

神明社は、王禅寺村の鎮守五社のひとつである。祭神は天照大神・大国主命で入口谷戸の鎮守となっている。初めは、後北条氏の家臣であったといわれる吉垣氏の社であった。

⑧ 稻荷森神社

稻荷社は王禅寺村の鎮守五社のひとつで、入口谷戸の鎮守である。江戸時代初めに久保倉氏の先祖が、村の安穏と五穀の豊饒を祈願し、京都の伏見稻荷から勧請したものである。

⑨ 籠口/池公園

面積が1 ha ほどある大きな公園。籠口ノ池は真福寺川に沿った広い下麻生の田んぼの灌漑用水として、稲作には大切な池であった。現在は稲作の溜池から雨水の調整池に代わり、市公園課の管理となっている。この池の周囲は桜の木が植えられ、4月の花見頃は花見の名所になっている。→不動橋

⑩ 月読神社

当社は約 450 年前、武蔵國都築郡麻生郷の領主小島佐渡守が打続く応仁戦乱の苦悩にあえぐ領民のため、天下泰平五穀豊穰を祈願して、伊勢皇大神宮別宮月讀宮の分霊を勧請、天文3年9月29日亀井城の卯の方に社殿を建立し、1尺1寸8分の尊像を奉安したのが創始である。宝永5年の富士山噴火、又天保3年の大飢饉等に際し、上麻生三井・下麻生安藤の両領主を始め領民挙げての発願により、しばしば社殿を修復、領内安穏子孫繁栄の祈祷を行った。

⑪ 浄慶寺(柿生のアジサイ寺)

寺は元和元年(1615年)の開山。浄土宗。本尊は阿弥陀如来。緑の丘に囲まれ梅雨時になると昭和42年(1967年)ごろから植え始めた千本を超える紫陽花が咲き、「柿生のあじさい寺」と呼ばれている。一対の狛犬は近年東京小石川傳通寺(徳川家康の実母の菩提寺)より移された。また、境内には表情豊かな羅漢像群が出迎えてくれる。浄慶寺上の右手山腹には秋葉神社がある。→柿生駅(解散)

《今回の童謡・青春歌謡》

高校三年生 舟木一夫 →1963年、今から50年前に流行りましたね!

1. 赤い夕陽が 校舎をそめて
ニレの木陰に はずむ声
ああ 高校三年生 ぼくら
離れ離れに なろうとも
クラス仲間は いつまでも
2. 泣いた日もある 怨んだことも
思い出すだろ なつかしく
ああ 高校三年生 ぼくら
フォーク・ダンスの 手をとれば
甘く匂うよ 黒髪が
3. 残り少ない 日数を胸に
夢がはばたく 遠い空
ああ 高校三年生 ぼくら
道はそれぞれ 別れても
越えて歌おう この歌を